



PAS-SCT 看護学会第2回大会 開催報告

第2回大会を終えて

第2回大会大会長 宇佐美しおり

(四天王寺大学看護学部・看護実践開発研究センター)

PAS-SCT 看護学会第2回大会は、令和元年8月31日に「看護介入技法—セルフケアプログラムからPASセルフケアセラピー(PAS-SCT)まで—」を大会テーマとして開催し、100名を超える参加者となりました。

プログラムは、森山美知子先生の基調講演、小谷英文先生の教育講演、演題発表、ケースカンファレンス、学会トレーニング検討委員会企画などで盛況のうちに終わりました。慢性疾患患者へのセルフケア支援の重要性と方法について、いまなぜ、セルフケアプログラムなのか、PAS-SCTが必要なのか、どう展開したかという事例報告、さらにどう事例研究を推進していくのかといった新しい理論と介入技法を検討し、共有、意見交換することができました。

特に事例報告、事例研究では、PAS-SCT事例研究法をお示ししましたが、これまでの実践を振り返るだけではなく、総合アセスメントをもとにCASE FORMULATIONを展開し、事例報告をしながら実践する。さらに事例報告で出てきたケア・アルゴリズムを事例研究へと展開させ、検証していく「介入型」事例報告、事例研究の重要性と必要性を共有し確認いたしました。

在院日数が減り地域包括ケアが推進され看護職が非常に多忙を極める中、患者の個別的な生活に目を向け、自分のことに専念することを支援するセルフケアプログラムは、看護職として最も楽しく、患者および家族の回復を促す重要な実践の鍵です。そして事例報告・事例研究にまとめ看護職のケアの意味を明確にすることで、自分のアセスメントと介入技術を発展させ理論化していくことができ、専門家としての能力開発の一部です。

本学会は、入退院を繰り返し、行動化や自傷行為・隔離拘束が長期的にとれない患者や長期入院予備軍という、ケア困難患者に対する慢性疾患患者のセルフケアプログラム、PAS-SCTの理論と技法の展開・発展、それらの介入型事例報告と事例研究を推進していく予定です。今後ともぜひ皆様にも関心をお持ちいただき、看護職の中心的行為としてのセルフケアプログラムおよびPAS-SCTを発展させていただければと思います。

第2回大会基調講演の森山美知子先生、教育講演の小谷英文先生、ケースカンファレンスを運営してくださいました先生方、学会トレーニング検討委員の先生方、大会にご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。





PAS-SCT 看護学会第3回トレーニング 参加者の声

PAS セルフケアセラピー (PAS-SCT) 看護学会主催トレーニングに参加して

千 英樹

(東京医療保健大学和歌山看護学部)

私は、33年間の看護実践を振り返ると、日々の看護の大切さを十分理解し、患者の訴えに耳を傾け、共感し信頼関係が成立していると思っていました。しかし、表現は適切ではないが、ぴたりとはまったという看護実践は数が少ないと実感していました。それはなぜだろうと思いつつも他職種と連携し乗り切ってきました。

昨年からは精神看護を教育として学生に伝えるとき、理論の理解なくして看護は成立しないことを伝えることはできるが、看護を実践として活用していくプロセスについては、経験や実践感に頼るだけでは限界があるとの思いが次第に高まっていく中で、PAS セルフケアセラピーに出会いました。

このPAS セルフケアセラピーの理論とプロセスは、前述した数多くの自分では困難と思われた事例や、数少ないぴたりとはまった事例の理由を明確にしてくれました。その理由は、PASの10ルールから始まり、人と人が出会った瞬間から起きる、意図的ではない物理的なエネルギーの相互作用空間の存在、PAS-心理力動的状態査定を用いたのアセスメント、原因-影響-対処の力学的な因果ラインを理解するためのPEA紐過程、技法としてのDERソフトなどすべてにおいて「なるほど」と腑に落ちました。

さらにトレーニングは困難事例のロールプレイを行い、看護師役ではメタ認知的に自分の陥りやすいパターンの把握をすることができました。何よりも、患者役をして、看護師の言葉一つで自分の中に起きる感情を体験し、患者はあの時本当はこんなことを言いたかったのではないか、自分は本当に患者の言いたい主訴を引き出せていたのだろうか、自省できたことが一番の収穫だったのかもしれない。できれば、もっと早くPASに出会いたいと思いました。

ただ、これらの技法はすぐに身につくものではなく、繰り返しトレーニングが必要です。今、私は教育という看護のフィールドに変わりましたが、人と人との関係を実りあるものにするためにもトレーニングを重ねていきたいと思っています。それが高度実践看護師と高度実践教育者への近道であると考えています。

PAS-セルフケアセラピー看護学会主催トレーニングの感想

吉田志津加

(関西医科大学附属病院)

CNSを目指す私にとって、実践的なスキルを獲得するために、座学ではなく実践的に学ぶ場はとても重要であると考え、トレーニングに参加しました。

2日間のプログラムは、1日目が事例を用いて全体像の把握やアセスメント、介入ポイントとPAS-SCTの基礎を学び、2日目が3分間のロールプレイを複数回繰り返し、介入技法について実践的な視点を学びます。ロールプレイは、受講者が患者役と看護師役になって進めます。同じ事例を何人かが交代して行い、終了の都度、患者と看護師の会話で何が起こっていたか、講師と受講者が意見を交わします。

同じ設定なのに、看護師役が変わるだけで場の空気感がこれほど変わるものなのかと気づかされました。看護師の言動だけでなく持っている雰囲気の影響し、患者の反応の変化に繋がっていることがわかりました。私も一度、看護師役をさせていただきました。患者役の言動の意味や、それに私がどう対応していたのかについて、客観的な指摘をいただきました。なぜ現場で上手くいかないのか、どうすればいいのか、ということを感じながら理解することができました。



トレーニングは、現場にいてその場で教えてもらっているような感覚があり、鍛えてもらっているという実感があります。2日間のトレーニングはあっという間に過ぎます。先生方の指導と、経験豊かな受講者のみなさんの色々な意見をもっと伺いたい、もっと時間が欲しいと思いました。

このトレーニングは、ロールプレイで患者役をした人が、自分の介入についてどのような体験をし、どのような気持ちになるのかをフィードバックしてくれます。つまり、自分の介入の何が効いて、何が効かないのかをその都度自己分析することが可能になります。困難事例の支援方法について、PAS-SCTを用いた実践ができるよう、これからもトレーニングを続けて力をつけたいと思います。



学会誌刊行のご案内（学会誌編集研究促進委員会）

学会誌第1巻刊行に向けて

学会誌編集研究促進委員会委員長 荒木孝治
(大阪医科大学看護学部)

11月に学会誌の第1巻が刊行の運びとなります。掲載内容は、昨年開催されたPASセルフケアセラピィ学会設立記念第1回大会での宇佐美しおり先生の大会長講演、学会監事の南裕子先生の基調講演、監事の岡谷恵子先生の教育講演をはじめ、これまで、セルフケアモデルの看護介入において、第一線で活躍されてきた先生方、国府浩子先生、本城綾子先生、上野恭子先生、宇佐美しおり先生のシンポジウムでの発表を採録しています。また、宇佐美先生には特別寄稿を執筆していただき、PASセルフケアセラピィの事例研究法に関する論文を収録しております。

講演記事からは、セルフケア理論の基盤となる根本的な考え方について、セルフケアの意図的過程と言われながらもその過程に乗りにくい本質的な理由について、看護の成果を見える化・可視化することの大切さ等々について、たくさんのことを学べるように思います。また、シンポジウムの記事からは、患者の意向（意思決定）に関する看護研究、個々の患者に応じたセルフケア支援、セルフケアモデルを効果的に使うことができないわけ、対応が困難な患者さんが（セルフケアの）意図的過程を展開するに至るための道筋について、専門的で具体的な知見を得ることができるように思います。更に、寄稿論文からは、オレム・アンダーウッド理論を徹底するのになぜ精神力動理論が必要なのか、また、看護師の実践能力の向上のために事例検討を重ねる中で何を引き出すとよいのかについて多くの示唆が得られるように思います。どうぞ楽しみにお待ちください。



学会トレーニングのご案内（学会事務局）

◆PAS - SCT 看護学会トレーニングー精神科診断・薬物治療編ー

「慢性疾患患者へのセルフケアプログラムーケア困難患者への PAS-SCT 実践における精神科診断と薬物治療、治療概要ー」と題し、ケア困難患者への PAS-SCT 実践を行う上での精神科診断と薬物治療について、セルフケアプログラムでのケア検討を行いながら精神科診断、薬物治療の検討を行っていきます。精神科診断、薬物治療に関心をお持ちの方々はぜひご参加ください。

日時：2019年11月17日（日） 10:30～14:00

場所：あべのハルカス 23階 四天王寺大学サテライトキャンパス

参加費：会員 3,000 円、非会員 4,000 円

◆第4回 PAS-SCT トレーニング

慢性疾患患者へのセルフケアプログラムおよびケア困難者に対する PAS-SCT 実践、介入技法、事例検討をトレーニングとして行います。今年度4回目の開催となりますが、初めての方でも参加していただける内容になっています。自分の看護職としての実践能力を高め、実践したことを研究にまとめていくことに関心のある方はぜひご参加いただければと思います。

日時：2019年12月21日（土） 11:00～18:30、12月22日（日） 10:00～16:30

場所：あべのハルカス 23階 四天王寺大学サテライトキャンパス

参加費：会員 13,000 円、非会員 15,000 円（2日間の参加費です）

◆申し込み先：PAS-SCT 看護学会事務局

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1

四天王寺大学看護学部

Tel：072-959-2436 E-mail：passct_office@passct.com

事務局長 川田陽子（四天王寺大学）

事務局 石飛マリコ（日本赤十字九州国際大学），宮崎志保（四天王寺大学），橋野明香（広島大学）

2019年

PASセルフケアセラピー(PAS-SCT)看護学会主催 第4回 トレーニング

本学会トレーニングでは、悪性腫瘍、糖尿病や心不全、脳血管疾患、精神疾患を有する患者へのセルフケアプログラムからケア困難な患者に対するPASセルフケアセラピーの介入に関する効果的・効率的介入理論と技法を学びます。

参加者には介入技法のリフレクションのために、後日、トレーニングでの学習資料をお送りします。

トレーナー：宇佐美しおり先生

四天王寺大学看護学部・看護実践開発研究センター教授

技術トレーナー：小谷英文先生

PAS心理教育研究所理事長、国際基督教大学名誉教授

❄️ 日 時

1日目：2019年12月21日（土） 11時00分～18時30分

2日目：2019年12月22日（日） 10時00分～16時30分

❄️ 会 場

あべのハルカス23階 四天王寺大学サテライトキャンパス

〒545 - 6023 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43

❄️ トレーニング内容

第1回（2月2日，3日） 1日目：基礎技術練磨＋2日目：セルフケアプログラムの展開

第2回（5月18日，19日） 1日目：基礎技術練磨＋2日目：セルフケアプログラムの実践と
研究双方向の能力育成

第3回（9月21日，22日） 1日目：基礎技術練磨＋2日目：PAS-SCT展開

〔第4回〕

1日目：慢性疾患（精神疾患、悪性腫瘍、心不全、脳血管疾患など）患者への
セルフケアプログラムの展開－基礎技術練磨－

2日目：ケア困難患者（行動化、自傷行為の繰り返し、セルフケアできない、
すぐ再入院されたり、なかなか退院できない、地域生活が維持できない）への

PAS-SCTの実践展開と事例報告・事例研究

初めての方でも 参加していただける
内容になっています

❄️ 参加費（2日間）

会員：13,000円 非会員：15,000円（学生はそれぞれ2000円引）

❄️ お問い合わせ・お申込み

PASセルフケアセラピー看護学会事務局 川田陽子

大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1 四天王寺大学看護学部

TEL：072-959-2436 E-mail：passct_office@passct.com